



御蔵山 火山防災だより



◆火山噴火への備え-防災訓練◆

火山防災対策はソフト・ハードなど多様な種類のものがあります。その中でも今回は、ソフト対策のひとつである防災訓練について取り上げます。

平成24年1月、富士山麓の山梨・静岡県等の自治体などが参加して、富士山噴火を想定した国土訓練が行われました。気象庁から発表される噴火警戒レベルの強化に際し、防災担当者らが何をすべきかについて、具体的な準備状況や行動をイメージしながら話し合いました。そうすることで、近隣自治体との情報共有や連携等において不足している対応項目や、避難動向をたずねる・避難場所の確保といった課題が次々に整理され、噴火対策の充実につながりました。

今回ご紹介した防災訓練のように、様々な被災状況をイメージし、自分がとるべき行動を考えてみることは、誰もが日常生活の中でできる防災訓練となります。災害時に被害を最小限に食い止めるための行動ができるよう、日頃から準備したいものです。



会場で噴火の発生を想定し、避難の準備話し合う様子（H24富士山噴火防災訓練より）
2011.1.28 富士宮市内にて撮影

◆ひずみ集中帯と御蔵山◆◆

御蔵山の西には阿寺断層帯と呼ばれる日本列島の西側帯が北西-南東方向に伸びています。御蔵山の北の約小笠原と南の本置川谷には北東-南西方向に伸びる新断層帯があります。御蔵山は新断-神戸型集中帯と呼ばれる地帯にひずみがたまりやすい獨特の構造にあり、火山活動のみならず地震活動にも注意を払う必要があります。長野県西部北信の地震活動域は、これらの断層帯と同じ方向に伸びています。



「東京大学地学系 活断層帯分布システムマップ」に追加
説明：黒田 隆（2007）「ひずみ集中帯」に追加

御蔵山のめぐみ ①

正倉川にある乳母ダムは、平塚つに流した豊富な水量が源を動力とし、皇初用水の水源地として昭和38年に完成しました。以来、御蔵山から湧き出るめぐみの水は、岐阜県高岡市から岐阜県産までの白米や無糖餅などを産し、約80万人の生活のために使われています。めぐみの水は、伊勢川沿岸に広がる工業地帯でも利用され、沿線の発展をもたらしました。また川水源地の途中では、湧水を活用した水の発電によって電気がつくられ、皇初用水の管理に利用されています。

乳母ダム上流にある御蔵池（下）



御蔵池（上、下）
上は150年が経っためぐみ池



御岳山と人

山の奇譚「加齢」主人

田中秀夫さん



御岳山のめぐみというものは、われわれの生活そのもの、「母なる山」です。山頂で剣ヶ峰絶頂を昇華していた頃、御神火祭の時は、お客さんがどンドン入って来る暇もないくらいでした。お客さんの団体は、日本人のいいところを全部持っている、先達さんがどの小屋へも必ず導ってお茶代を返ってきてくれる。だから山小屋は、どんなお客さんでも厚待ちで、ちょっと休んでいってよなって、そういう、うんとあったかい心のつながりがありました。

昭和54年、御岳山だと思っていた御嶽山が噴火するというのは、青天の霹靂でした。後上谷君には、べちょべちょで重くなった服がびしょぐらいまで濡れ、長靴が抜けなくなるほどでした。登山道が凍る中、尻の痛みで剣ヶ峰絶頂の標を落とすわけにはいがないと、必死の思いで女性の補強をしに行きました。

当時は大塚の消防団長でもありましたので、まずは増長火口の燃焼とドロドロの泥で汚染された山頂部から王滝川へ入る泥流の監視を行いました。それから頂上に火山ガスをもニタリングする検知器を設置する必要があり、90日ほど営りました。警戒区域の指定が2シーズン続き、王滝村は大変な経済的負担を受けましたが、御嶽山も小屋状態になり、ようやくがんばれるなあとということで昭和59年の冬とんでもない地震に遭いました。

自然災害というのは、興味が手取できないくらいのもすごいのがあり、逃げられない、誰も助けることが出来ない部分もあります。危機があったらまず自分で逃げる知恵を持つことが大事です。今の日本人は、「監視的におお」を確感分ける感覚が鈍化しているような気がします。

◆本管川泥流◆

御岳山では「本管川泥流」と呼ばれる大規模な火山泥流が発生していたことが知られています。この泥流は、御岳山の東斜面が大崩壊し、崩壊によって発生した泥流が岐阜県各務原市や愛知県の犬山付近まで約140kmを流れたと述べています。当時の御岳山周辺は今よりも気温が低かったと言われており、長距離流れたのは、積雪等の影響があったからかもしれません。多くの雪があるところで噴火などの火山現象が起ると積雪による火山泥流が発生することがあります。現在と単純には比較できませんが、火山現象が発生した泥流が遠くまで流れる例として参考になります。

◀ 本管川泥流の流下範囲 ▶



図説：資料館編纂（1979）「御岳山山頂部から山頂部周辺の泥流の流下範囲」- 複製形式

資料はこちら！（多岐県総合防災課発行4冊）

<http://www.dccr.mtk.go.jp/feature/sabo/04data/04data.html>

国土交通省中部地方整備局 多岐県総合防災課発行

〒507-0023

岐阜県多岐郡丹波町4-8-8

総合防災課

TEL：0572-25-6020（代番）

FAX：0572-25-7994

E-mail：tsuim@dccr.mtk.go.jp

協力：王滝村・本管町・高山市・下流市